非文字資料研究ネットワーク形成研究

Report 共同研究

ハイデルベルグ大学の学際的共同研究プログラムと大学院教育

金　貞我（非文字資料研究センター　研究員）

非文字資料研究センターの基幹研究の一つである研究ネットワーク形成班は、21 世紀 COE プログラムの研究成果を継承し、世界的な非文字資料研究の中心になるための研究ネットワーク形成を目指し、活動をつづけている。その活動の一環として、去る 1 月と 3 月に、ネットワーク形成班の研究メンバーが、韓国の国立民俗博物館、フランスのパリ国立高等研究院およびリヨン第 3 大学、そしてドイツのハイデルベルグ大学を訪れ、本学の 21 世紀 COE プログラムが達成した非文字資料研究の実績を伝えるとともに、今後の研究ネットワーク形成のための研究情報の交換および研究者の相互派遣など人的交流の可能性について協議した。

なかでも、ドイツのハイデルベルグ大学では、極めてユニークな研究内容と大学院教育を展開する Karl Jasper 研究所を訪問し、これからの研究協力について意見を交換した。Karl Jasper 研究所は、ドイツ学術財団およびドイツ科学研究協会の研究支援を受け、学際的共同研究を行っているクラスターの研究拠点である。ドイツのクラスター（Cluster of Excellence）は、日本の COE（Center of Excellence）プログラムに類似する研究プログラムで、学際的に行われる研究への取り組み方や組織、そしてクラスター研究理念に基づいたクラスター独自の大学院教育は注目すべきものであった。

今回の訪問に際して協議の場を設定してくださったのは、東アジア研究センター・東アジア美術史研究所のメラニー・トレーデ教授であった。トレーデ教授の細心な配慮による日程設定のおかげで、短い訪問ではあったが、所長の Madeleine Herren-Oesch 教授、Martin Gieselmann 大学院教育担当マネージャー、Christiane Brosius クラスター教授、データベース構築担当の Matthias Arnold 氏ら、クラスターの重要メンバーと会い、クラスターの研究活動と大学院教育について詳細な話を伺うことができた。ここでは、その内容を、ハイデルベルグ大学クラスターの研究活動と大学院教育を中心に紹介することにしたい。

ハイデルベルグ大学のクラスターと Karl Jasper 研究所

ハイデルベルグ大学は、ドイツ政府が卓越した研究と教育を実践する大学を支援する「Initiative for Excellence」の助成をうけ、大学の研究環境や若手研究者の養成、国際的競争力の強化、そして大学の知名度を向上させる努力を続けてきた。さらに、その一環として進められる「総合大学への潜在力の具現化（Heidelberg: Realizing the Potential of a Comprehensive University）」（2012 年まで継続されるという）の研究支援を背景に、「古典的な大学」から「未来型の総合的な大学」へと変貌を目指しているという。ハイデルベルグ大学は、「Initiative for Excellence」の研究助成として二つの研究プログラムが採択されたが、その一つが、Karl Jasper 研究所が推進している「グローバルコンテクストから再構築するアジアとヨーロッパの文化交流（The Cluster on Asia and Europe in a Global Context: Shifting Asymmetries in Cultural Flows）」である。その研究が目指す目標は、アジアとヨーロッパの間に往来された文化の流れは、多くの場合にヨーロッパ史観の支配的立場から不均衡に捉えられてきたとし、ヨーロッパやアジアの歴史、言語、文化遺産など関連諸分野の多角的な研究のアプローチにより、従来のヨーロッパ中心の視点から定義されてきた文化交流の偏見を是正しようとするものである。その研究を推進するために、ハイデルベルグ大学のアジアとヨーロッパ関連研究所が Karl Jasper 研究所を拠点として集結し、異なる領域の専門家が同一の目標に向かって共同研究を行っている。

幅広い研究活動を円滑に進めるために、Karl Jasper 研究所の他にもインドと中国に設けた研究支部があるというが、それらの海外研究拠点とともに Karl Jasper

研究所はクラスター活動の中核部の役割を担う。クラスターの「グローバルコンテクストから再構築するアジアとヨーロッパの文化交流」は、四つの研究領域で構成されている。

1、統治と行政研究グループ
2、公共領域研究グループ
3、衛生と環境研究グループ
4、歴史と文化遺産研究グループ

四つの研究グループは、それぞれアジアとヨーロッパ研究を、古代史から近現代史研究にいたるまで、広域な視点から文化交流における歴史の再構築に取り組んでいる。

これらの研究領域を軸に、ポストドクターを中心とした若手研究者はいくつかのテーマによる研究グループを組織し、長期的な研究活動に取り組んでいる。五つに分かれている若手研究グループの具体的な研究テーマは次のようである。

1、不均衡的な文化情報の流入―19世紀以降のグローバル情報ネットワークにおけるヨーロッパと南アジア
2、災害文化―歴史と文化に関する比較研究から再構築する社会、文化、自然環境の間における不均衡
3、効率性に対する魅了―近世ヨーロッパとアジアにおける概念の流入と官僚制度の出現
4、越境する空間とアイデンティティー中国のハルビンを例にして（1898年～1949年）
5、国家形成の要素としての転移

若手研究グループの研究は、クラスターと緊密なつながりを持って展開されるもので、その研究成果は、クラスターの研究担当者による研究とともに、「文化交流のイメージに関するメガ・データベースの構築」の中に蓄積される。メガ・データベースはIT担当部のIT技術者、クラスター研究担当者を中心に、ポストドクター、大学院生の協力で資料の収集と整理が行われている。現在、文化交流概念データベース（Transcultural Concepts Database）と文化交流イメージデータベース（Transcultural Images Database）の二つの大型データベースを構築中であるという。

さらに、クラスターの研究を支えるメンバーとして4人のクラスター教員が採用され、研究の重要な一翼を担っている。なかには海外から迎えた研究者も複数含まれている。その専門領域は、「ヴィジュアルとメディアの文化人類学」、「文化経済の歴史」、「グローバル美術史」、そして「知の歴史」などであるが、クラスター教員は、メガ・データベース構築のための資料の収集など、共同研究の重要な役割を担うとともにクラスターに設置された博士課程の大学院生の指導にもあたるという。ハイデルベルグ大学クラスターのユニークな点は、クラスターの研究理念と方法論を継承し、発展させる将来の人材を育てるために、クラスターが独自に運営する大学院が設置されていることである。以下、大学院プログラムついて、若干、紹介しておく。

クラスターの大学院教育

ハイデルベルグ大学クラスターの研究活動の中に、最も斬新で革新的な試みは、クラスターの研究趣旨に基づいたクラスター独自の大学院教育を展開していることである。クラスターの大学院はKarl Jasper研究所に置かれており、指導はクラスターの研究担当者が担当する。大学院に設けられているのは、博士課程のみであるが、クラスターの研究活動とともにスタートしたプログラムであるだけに、課程の内容もクラスター研究の理論や方法論の教授に重点が置かれている。博士課程の学生は、クラスターの豊かな国際的研究環境のなかでクラスターの教員による指導を受ける。

具体的なカリキュラムとして、多様な文化交流学の理論や方法論に関する講義、ヨーロッパやアジアの多様な研究機関に支えられる研究環境の中で文字資料や非文字資料の収集への参加、そして博士論文プロジェクトへの積極的な支援などがあげられるが、これらの内容は、クラスターの研究内容と密接なつながりを持つものである。現在、クラスターの大学院には、初年度に受け入れた13名と2年次の19名を合わせて、計32名が在籍中であるという。クラスター大学院プログラムには、大学院担当マネージャーが大学院生の研究方向やコースワークの履修などについてきめ細かな指導をし、また大学院生の生活の面にも気を配る体制が整っている。大学院課程は、博士課程の履修と学位論文の提出まで3年間で修了することを目標としており、1年目は理論と方法論を中心とした授業、2年目は海外でのフィールドワークの実施、そして最終年度の3年目は学位論文の作成に充てる。コースワークや博士論文プロジェクトに対する指導教官の細かな指導と大学院生の自立的な研究体制を並立させたクラスターの大学院プログラムは、伝統的なヨーロッパの大学院教育を一新した斬新な試みとして注目されている。

大学院生の研究テーマとしては、インド研究、中国研究、日本研究、文化人類学、美術史、演劇史、国際衛生、通信と情報学、宗教学など、クラスターの研究コンテクストと直接関連のある分野から選ばれ、大学院生は個人の学位論文テーマに近いクラスターの四つの各研究グループに RA（Research Assistant）として属しながら、クラスターの研究にも加わる。クラスターの研究担当者で構成される二人の異分野専門の指導教官が大学院生の指導にあたり、クラスターのポストドクターがチューターとして大学院生にきめ細かな研究支援をする態勢も印象的であった。それぞれ専門領域の異なる二人の教員が指導教官を担当するのは、学際的研究を実践するクラスターの理念を大学院の教育の場で体験させることが目的であるという。サマーセミナーやワークショップなどを、Karl Jasper 研究所の他にもアジアの各地で積極的に開催し、大学院生に幅広い国際的研究環境の経験を与えるのも、学際的共同研究を実践するクラスターの教育課程に相応しい特徴であるといえる。

クラスターの大学院プログラムが目標とするのは、クラスターの研究が単なる一つの研究プロジェクトとして完結し、一つの研究成果を作り出すだけで終わるのではなく、クラスター研究の新たな方法論が次の世代の研究者に継承され、さらに発展していくことである。クラスターの大学院生は全員奨学金が支給され、学費は勿論、生活費までが保証されており、2 年目に行われる海外でのフィールドワークに対しても、1 年間の調査・研究費を全面的に支援するという。このようなクラスターの大学院プログラムは、国内外の多くの人材をひきつけ、クラスターでの研究をめざして世界各地から優秀な学生が集まっている。大学院定員の半分は、アジアからの留学生に与え、アジアからの優秀な人材を積極的にかつ優先的に受け入れている。クラスターの大学院で使用される言語は、ドイツ語ではなく英語である。すべての講義や論文指導などが英語で行われているが、それは、外国人留学生に、上達するまで相当な時間を要するドイツ語力を要求するよりも、国際的に活躍できる若手研究者養成を優先した結果であるという。また、海外からの志願者がドイツ国内の学生と同じ条件で面接試験に臨めるように、時差が十分回復できる宿泊日数を設定し、その費用はクラスターが全面的に支援するという話を伺い、優秀な人材確保に取り組むクラスターの真剣な姿勢が伝わってきた。

非文字資料研究センターは、現在、ハイデルベルグ大学の Karl Jasper 研究所と若手研究者の交流、研究情報の交換、そして共同研究について、協力関係を模索中である。



ハイデルベルグ大学の大学広場



クラスター関係者との協議